

ユネスコ創造都市ネットワーク報告書の評価について

1 趣旨

ユネスコ創造都市ネットワーク（以下、UCCN）が提唱する持続可能な都市発展へ貢献した取り組みについて、加盟都市は4年毎にユネスコ事務局へ報告書（モニタリングレポート）を提出することが義務付けられている。2014年12月にUCCN音楽分野へ加盟した浜松市は、2018年11月末に最初の報告書を提出した。（以後、4年毎に提出する。）

2019年4月30日、ユネスコ事務局から報告書に対する評価が届いたため、その内容を報告するもの。

2 評価結果（概要）

評価項目	浜松市の評価
UCCNの活動への参加レベル（高・中・低の3段階）	高い
地域レベルの取り組みの質と量（1～5の5段階）	5（非常に優秀）
都市間の協力により実施された取り組みの質と量（1～5の5段階）	5（非常に優秀）
今後4年間のアクションプランの質（1～5の5段階）	5（非常に優秀）
総合評価	非常に満足

3 評価のポイント

全体として、本市がUCCN加盟後4年間に取り組んだ地域レベル・国際レベルにおける主要な創造都市事業の成果に対して、非常に高い評価を得ることができた。

<特に評価された点>

- ・ サウンドデザイン分野（医療や科学など他分野における革新的な音楽の活用手法）において、浜松市は、音楽都市の先駆者・パイオニアである。
- ・ 先端的なアプローチを用いている一方、これまでの市の遺産を忘れずに、伝統的なアプローチも大切にしており、楽器博物館、音楽教育プログラム、都市間交流も価値のある特徴的な強みである。
- ・ また、市民の草の根的な活動の支援や、楽器メーカーなど市内の重要な関係者との協働も素晴らしい事例である。

<今後への期待>

- ・ 異分野連携の取り組みを積極的に進めることにより、都市の発展に役立ててほしい。